東京都小学校道徳教育研究会　　令和 7年 5月15日

都小道研だより　第２号

所信「一人一人にとってのよりよく」を目指して　　会長　吉田　友信

1　令和７年度　都小道研としての覚悟　～中教審諮問を受けて～

２０４０年代を展望した新しい学習指導要領に向けた議論のキックオフとなる文部科学大臣による中央教育審議会（中教審）への諮問が、昨年末（令和６年１２月２５日）になされましたことは記憶に新しいところです。その中では、子供たちは激しい変化が止まることがない不確実性の高まる時代を生きる上で自らの人生を舵取りする力を身に付けることが重要であること、持続可能な社会の創り手として育てていく必要があることを指摘しています。また、テクノロジーにより全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが我が国の未来のために不可欠であることを強調しています。

また、顕在化している課題としては、学ぶ意義を見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が増えていること、不登校児童や特別支援教育の支援の充実とともに多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題であることを指摘しています。更にデジタル学習基盤の効果的な活用のためのデジタル人材育成を強化しデジタルの力でリアルな学びを支えるとの基本的な考えに立ち、バランス感覚をもって積極的に取り組む必要があることを強調しています。

以上のように中教審の諮問文等を何度も読むにつれ、私たちが中心に据えて研究活動に取り組んでいる道徳教育や道徳科の授業と密接な関係があることを改めて深く感じずにはいられません。また、私たちが今、学校で接している子供たちが成長し社会で活躍する姿を想像したとき、教育活動全体で組織的に行う道徳教育や１週間あたり１時間しかない道徳科の時間の果たす役割が、今後ますます大きく、重要になっていくことを思うと「道徳人」として使命感の高まりを覚えます。

中教審の答申は、現時点で令和８年度中を想定しているようですが、我が国の教育の方向性や道徳教育とも深く関わる大変重要な位置付けであると再認識し、今後の中教審での議論を全員でフォローし、その動向に注視し、先回りして実践するくらい積極的な姿勢で取り組んでいきたいと考えます。

さて、本年度も都小道研の総力を結集し、昨年度に引き続き「都小道研の活性化」を目指し「研究は厳しく、人間関係は温かく」を合言葉として、１年間の事業や研究活動に取り組みます。来る６月６日（金）に開催予定の「定期総会並びに講演会」は、都小道研全体の輝かしいスタートにあたり、定期総会、講演会、部員総会を設定しました。講演会の講師には、全国へのご出張と諸会議の連続でご多用の中を、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官　堀田　竜次　先生をお迎えすることが叶いました。しかも、本会の研究主題に沿った「児童が主体的に道徳性を養う道徳教育のより一層の推進・充実」という演題で基調講演を賜ることができ、素晴らしいスタートダッシュができそうです。

私たちは、これまで新型コロナウイルス感染症による様々な制限に苦しみながらも、都小道研として「研究活動を止めない」という強い姿勢と結束を貫き、本日まで歩み続けて参りました。であるからこそ、こうして一堂に参集して研究活動を大きく始動できるというこの瞬間も、決して当たり前ではない喜びと先達への感謝を胸に抱きながら、記念すべき大きな第一歩を踏みしめる幸せを共有して参りたいと存じます。

全ては、児童が主体的に道徳性を養うために。